■■各務原市立稲羽西小学校学校だより■Ｎｏ，　１１■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

稲西っ子

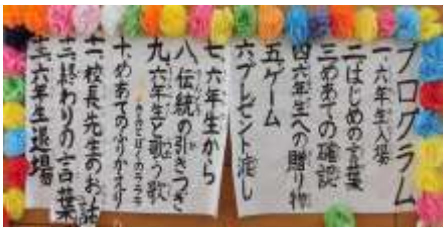
学校の教育目標
「豊かな心で　ねばり強く　やりぬく子」
○よく考える子【知】
○認め合い高まる子【情・意】
○進んで体を鍛える子【体】

■■■平成 30 年3月9日発行■■

○「*6 年生を送る会*」に思う・・・

　ほんわかと心が温まる、そしてほのぼのとした雰囲気の中で、6年生を送る会が行われました。「6年生の思い出に残り、ありがとうの気持ちが伝わる会にしよう」「感謝の気持ちを込めて楽しく会に参加しよう」と活動のめあての発表がありました。

　1年生は「あいさつのこと」、2年生は「通学班のこと」、3年生は「なかよし遊びのこと」、4年生は「クラブ活動のこと」、5年生は「委員会のこと」と、それぞれの学年から、6年生との思い出について、思いを歌声や呼びかけにして伝えてくれました。教職員も「ゆうき」の歌声でエールを送りました。一緒にゲームをし、プレゼント渡しをし、にこやかな時が流れていきます。6年生の下学年に向けられるまなざしのなんて優しいこと。やり切ることができたという満足感、安堵感からくるものでしょう。



　「あいさつ」「そうじ」「思いやり」の3つの宝物を稲西っ子の伝統として、引き渡しました。「つなぐ・つながる」は、順送りですが、伝統のバトンは重みを感じます。6年生が創り上げてきた「あいさつ」「そうじ」「思いやり」の姿は、下学年のあこがれです。バトンを引き継いだ5年生の表情が、きりっと引き締まり、そして頼もしくも感じました。形だけでなく「宝物を引き継ぐ心」がつながった瞬間です。「5年生、心が通い合う素敵な会を企画してくれてありがとう。この日を迎えるに当たって、なかよし活動のリーダーを引継ぎ、6年生へのプレゼント作りを続けてくれた。一年後は、あなたたちがひな壇に立つ番。手本となる姿を示し続け、さらに伝統の姿を高め、そして再びこの場に胸を張って立ってほしい。」…伝統をつなぐ心、6年生を送る会に強く思うことです。

○ボランティア手帳50回達成表彰・・・

　加藤壽志教育長さんが来校されて、直接ボランティア表彰をしていただきました。今回の表彰は、2月末までの達成者で、298名でした。達成者を代表して、6年の髙木さんが表彰状を受けとりました。大型商業施設でのカートの整頓や、夜間に困ってみえたおばあさんへの声かけなど、自身の経験をもとに、「人にほめられたり感謝されたりすることを目的として行動するわけではないけれど、自分のささいな行動で喜んでもらえたり役に立てたりして、自分がうれしさを感じることを知って、これからもいつでもどこでも進んで周囲の人たちの役に立てるようになりたい。」と、ボランティア活動についての思いを語ってくれました。教育長さんからは、「ありがとう」のメッセージとともに、これからもがんばってほしいと激励がありました。

　ボランティア手帳は、50回が達成される毎に、校長室に届けられます。しわくちゃの手帳を手に取り、中を開けみると、「がんばっているんだな。」という感想が随所に見られます。ボランティアをしている様子が目に浮かび、思わず胸が熱くなります。

　低学年では、がんばった気持ちだけでなく、「～をしたら、お母さんが『ありがとう』といってくれてうれしかったよ。」といった、褒めてもらえたうれしさが、中学年では、「絵の具セットがぐちゃぐちゃだったから、そろえました。よかったです。」といった、自分で気付いて行動できたことへのうれしさが、そして高学年では、公園や公民館、道路などの公共の場においても、進んでゴミを拾ったり、草引きをしたりと素直に行動に移していけた行動力がにじんできます。6年生は、中学校入学後、ふれこみ隊の活動等、更に活動の視野を広げて、ボランティア活動に取り組んでもらえることでしょう。